



社員から提出された感想文（一部抜粋）を紹介させていただきます。



毎年、本を購入していただき、ありがとうございます。

説明のコツがたくさん書いてあるので、まずは身近な家族に対していくつか実践しています。言葉が浮かばず詰まってしまうこともありますが、たとえ話や数字を混ぜることで以前より若干ではありますが、伝わっているのかなと感じています。（斎藤）



私は話を聞きながら、なんて言ってほしいのかな、なんて言ったらいいかな。自分だったら何をしたらいいかな。と考えていたのですが、それを考えるのは次の段階で、まずは「ちゃんと聞く」ことで思考が整理され、相手にとって「よく考えてくれている」になり、相手との信頼関係につながることを学びました。（関根）



「やり方」ではなく「あり方」が大切と書いてありました。

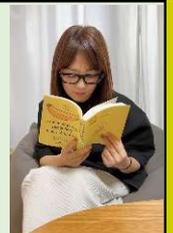
この本はスケールが大きく組織を変えていく言葉を導くのは簡単なことではないと感じました。ここで諦めるのではなく「みんなで話し合い共有していく」ことをやってみようと思いました。（太田）



この本の中で、一番印象に残っている言葉は「人は、生きている以上、勉強し働け」です。今の時代に合わない言葉かもしれませんが、私には響きました。また成長するには「感じる心」と「素直な心」が必要と説いています。この本で感じた「勉強すること」「感じる心を持つこと」を意識します。（飯原）



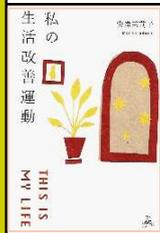
この本を読もうと思ったきっかけは、思ったことを伝えることの難しさを日々感じていて、少しでも自分の思いを相手に伝えることが出来たらと思い手に取りました。「伝える」と「伝わる」は違い、伝わるための技術を身に着けるため、何度も読み返してインプットとアウトプットを繰り返し、自分の表現で相手に伝わるような話し方を身に着けたいと思いました。（檜山）



栗山英樹さんの著書を読んで『論語と算盤』をプロ野球の監督時代に選手に配っていたということが書いてあり、次はこの本を読もうと決めておりました。人として大切な生き方はビジネスの世界でも共通していること、今後、行き詰って悩んだりすると思いますが、この本を読み返して自分を振り返っていきたいと思います。（稲田）



変化を楽しめるくらい前向きになっていく姿に、何か困難にあった時に考え方を換えれば良い方向に向かうという事を学びました。仕事だけでなく日常でも様子を見たほうがいいのか、次に進んでしまったほうがいいのか迷う場面はたくさんありますが、悩んで身動きが取れないよりも、始めは動けなくても、結果的には行動に移せるようになりたいと思いました。（加藤）



「これでいいや」で選ばないこと。「実は好きじゃない」を放置しないこと。生活改善運動を行ってきた結果、一番変わったのは生活そのものではなく自分自身。幸せなほうを選ぶということに罪悪感を持つのではなく、自己犠牲が尊いと思いこむのではなく、幸せになる選択をしていきましょう。（青木）

